

1 2階西

# 回復期リハビリテーション病棟



# —— 回復期リハビリテーション病棟とは ——

脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者さんに対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です

回復期リハビリテーション病棟協会  
ホームページより抜粋

# 対象となる患者さま

- 脳血管疾患、脊髄損傷などの発症後又は手術後2ヶ月以内の状態の方
- 大腿骨・骨盤・脊椎・股関節または膝関節の骨折又は2肢以上の多発骨折の発症後又は手術後2ヶ月以内の状態の方
- 外科手術又は肺炎などの治療時の安静のより生じた廃用症候群を有しており、手術後又は発症後2ヶ月以内の状態の方
- 大腿骨・骨盤・脊椎・股関節または膝関節の神経・筋・靭帯損傷後1ヶ月以内の状態の方
- 股関節又は膝関節の置換術後の状態の方
- 急性心筋梗塞・狭心症発作・その他急性発症した心大血管疾患または手術後の状態の方。  
(2022年新設)

疾患により、入院期間の限度が決まっています。



# 病棟の特色

リハビリテーション専従医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が病棟内に常駐しています。入院生活の中で日常生活動作（ADL）の自立を目的とした、リハビリテーションを支援いたします。

医師（Dr）、看護師（Ns）、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）、管理栄養士、薬剤師、医療福祉相談員（MSW）がチームを組んで、集中的にリハビリテーションを行っていきます。

入院されてから、ひとりひとりの患者様に対してチームでカンファレンスを定期的に行い、社会復帰に向けたリハビリテーションの計画をたてて行ないます。

リハビリ時間外でも、看護師と共に患者様の状態に合わせて「出来るADL」を「しているADL」への定着化をはかれるように援助いたします。病棟内の入院生活そのものがリハビリテーションです。

## 病棟の新たな取り組み

2022年11月より、1回/週 看護師による  
集団リハビリを始めました。

塗り絵や嚙下体操・車いすに座ったままでも可能な運動  
など、歌や音楽も取り入れながら、ベッドに臥床がちな  
方や麻痺のある方が、リハビリテーション以外の時間も  
活動できて、かつリハビリテーションにつながる場を設  
けています。

# スタッフ支援と新人教育

## ■ 支援体制

主任を中心としたグループ体制の中でのスタッフ支援と新人教育を行っており、スタッフ全員で新人ナースを育てる取り組みを行っています。定期的に振り返りを行い、技術や心理面へのフォローアップを行っています。

また、2年目看護師へのサポート体制として、メンターをつけてサポートしています。

## ■ 教育体制

病棟独自の回復期リハビリテーション看護ラダーに沿って年間スケジュールを決め、社会福祉制度や疾患、技術面の指導を行っています。

# ある患者様の一日の流れ

6:00	起床	移動できる方はトイレで排泄します	
8:00	朝食	食事は座位もしくは車椅子に座っていただき、摂取します	
9:00	検温	体調のチェックを行います	リハビリ個別訓練
12:00	昼食		1日最大3時間 (一単位：20分)
15:00	入浴	リハビリの合間に入浴です 体を洗う動作や浴槽に入る動作も練習しながら行います 自立できるようになると月～土に入浴できます	
18:00	夕食		
21:30	消灯		

トイレ動作や、食事摂取・歯磨きなど終日の日常動作がリハビリになります。  
これは一例です。患者様の病状や状態に応じて日々のプログラムは変わります。

## 病棟内の訓練風景



療法士から患者様に合った  
移乗方法のアドバイスを  
もらい実践しています。  
一緒に頑張りましょう！！



患者様が、車椅子からベッドに移乗する場面です。  
看護師が、安全に配慮しながら介助しています。こうした動作を日常の  
中で、繰り返し行うことで、患者様の残存能力を伸ばしていき、自立に  
向けて活かせる方法で行います。

# 病棟カンファレンスの様子



各職種が意見交換している場面

患者様のリハビリテーションの状態を、身体的、精神的、社会的な側面から捉えて Dr・NS・PT・OT・ST・MSW・管理栄養士のチームで話し合い、情報共有しています。これには適時、患者様や御家族も参加していただき、社会復帰に向け、患者様と共に共通の目標を立て、リハビリテーションを行っています。

# 病棟内の設備環境

病室



トイレ



通路は車椅子が通りやすいように広い作りになっています。総室の中には、トイレが設備されている場合もあり、麻痺など身体の状態に合わせてお部屋を選択しています。

トイレ内は車椅子でも利用しやすい設計になっています。リハビリスタッフと連携して、病棟でも自立を促す支援を行っています。

# 病棟内の設備環境

## 介助浴室



介助が必要な方が入る浴室です。天井に設置されたリフトで下肢麻痺の方の移動が安全安楽に行なえます。また様々な疾患の方でも安全安楽に入浴できるように入浴設備を整えています。

## ユニット浴室



自宅復帰に向け、お一人での入浴も支援しています。入浴の準備、時間の把握などを管理していただくこともしばりになります。

# 病棟内の設備環境

車椅子



患者様の状態に合った車椅子やクッションを療法士が選定します。車椅子だけでなく、食器など患者様に合った道具を使用していきます。

セラピーロボットパロ



意識レベルが低い方や認知症の方に活用しています。リハビリや日中活動の動機付けになります。

# 病棟内の設備環境

## 12階 機能訓練室



主に作業療法、言語療法が必要な患者様がリハビリで使用します。  
17時以降は談話室として、利用も可能です。



平行棒やプラットフォームがあり、主に理学療法の必要な患者様がリハビリで使用します。

病棟以外にも、2階には大きなリハビリテーション室があります。